

## 資料 アンケート調査からみる亀山市の子ども・子育て支援の状況

## (1) 亀山市子ども・子育て支援に関するアンケート調査

第3期子ども・子育て支援事業計画の策定にあたって、第2期計画策定時と同様に、市内在住の就学前児童及び小学生の保護者を対象として、令和6年2月にアンケート調査を実施しました。

調査の実施については、在園児及び在校生の保護者に対しては、施設を通じた配布・回収を行い、未就園児の保護者に対しては郵送による配布・回収を行いました。

## 【回収結果】

調査種別	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
就学前児童調査 (就学前児童)	1,252	1,016	1,014	81.0%
小学校児童調査 (小学生)	656	600	599	91.3%

## ①子育て家庭の状況

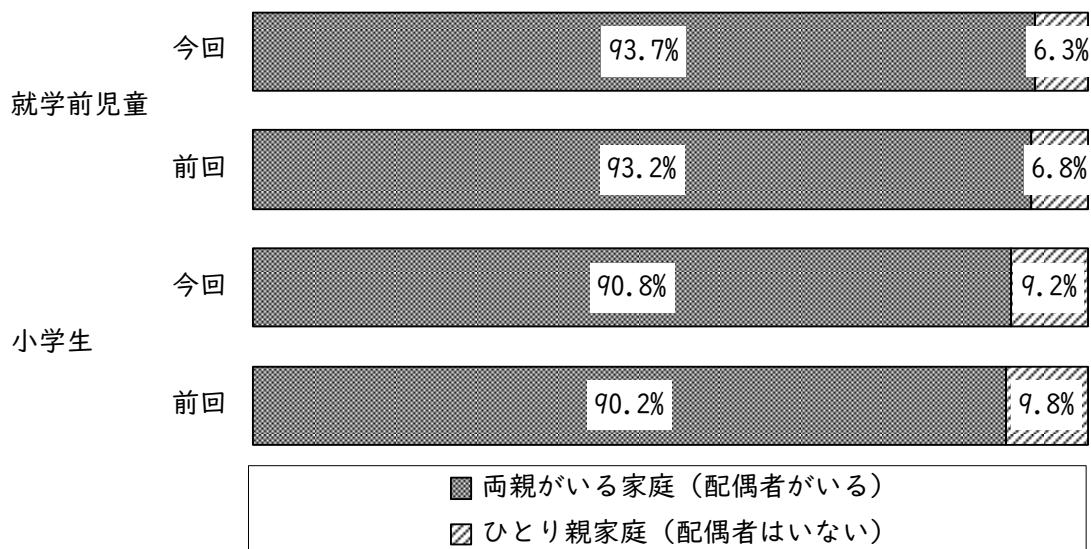
## 【保護者の状況】

就学前児童の保護者の状況を見ると、「両親がいる家庭」は93.7%、「ひとり親家庭」は6.3%となっており、前回調査とほぼ同じ傾向となっています。

小学生についても同様で、「両親がいる家庭」は90.8%、「ひとり親家庭」は9.2%となっており、前回調査とほぼ同じ傾向となっています。

就学前児童と小学生を比較すると、小学生のほうが「ひとり親家庭」の比率がやや高くなっています。

## ◆ 保護者の状況

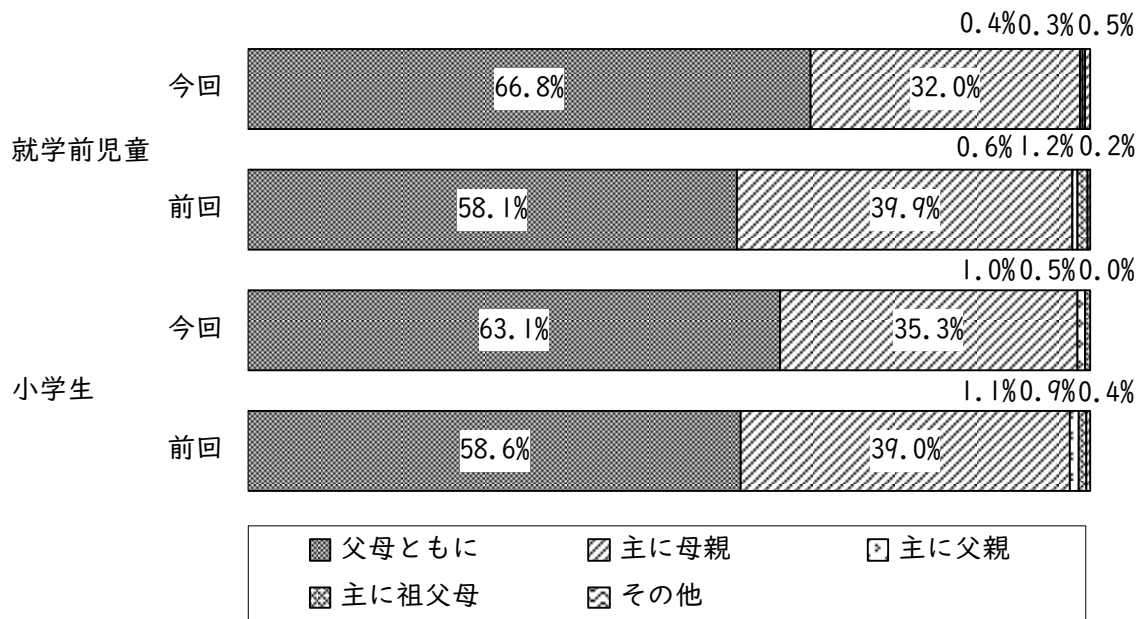


### 【子育て（教育を含む）の主体】

子育て家庭において、子育て（教育を含む）を主体的に行っているのは、就学前児童、小学生ともに、「父母ともに」が最も高く、就学前児童が66.8%、小学生が63.1%となっています。次いで「主に母親」で、就学前児童が32.0%、小学生が35.3%となり、いずれも全体の約98%を占めています。

前回調査との比較では、就学前児童については、「父母ともに」が増加する一方、「主に母親」が減少しており、父親の育児参加が進んでいる状況がみられます。小学生についても、「父母ともに」が増加し、「主に母親」が減少しています。

#### ◆ 子育てを主体的に行っているもの

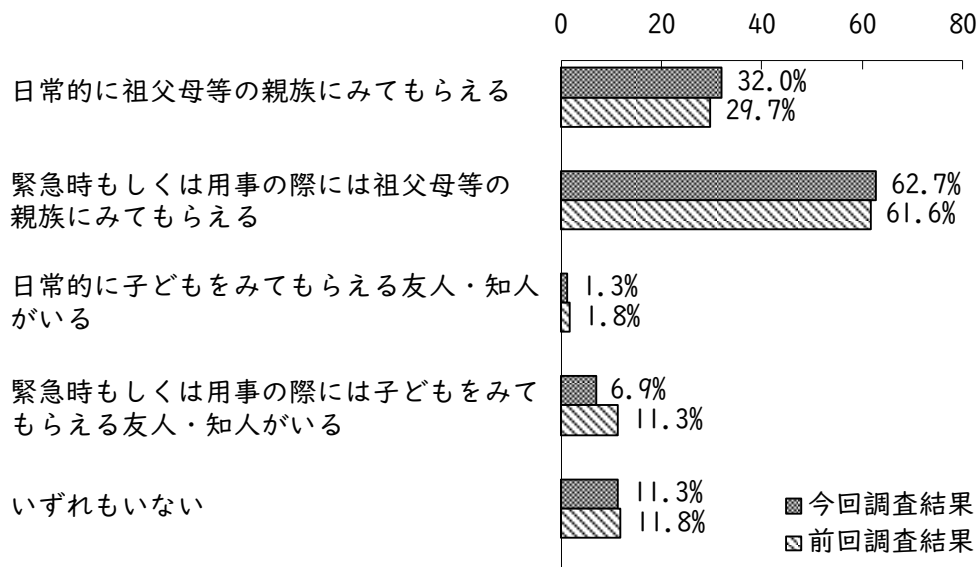


## ②子育て家庭の頼る存在や相談対象

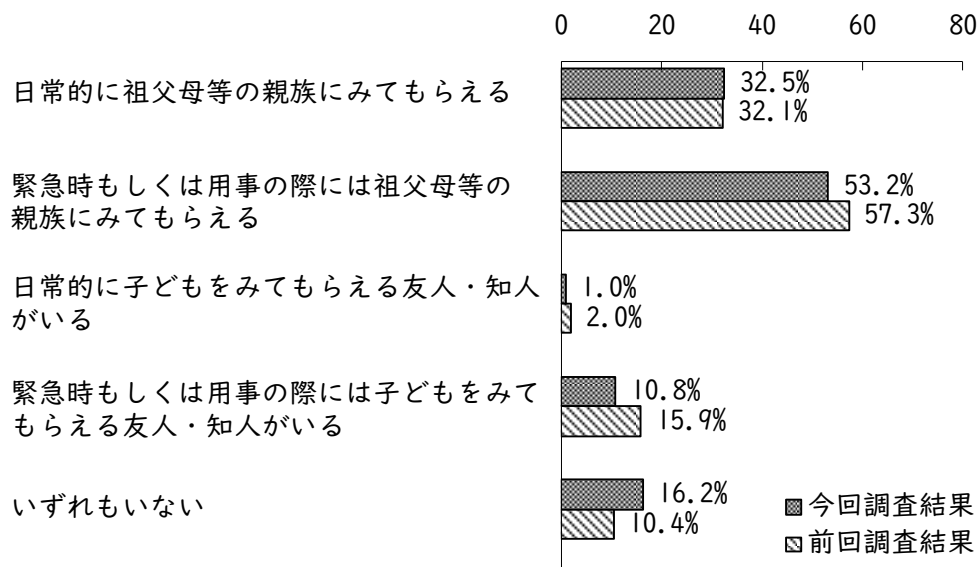
### 【子育て家庭の頼る存在】

子育て家庭にとって、頼ることのできる存在に関する項目では、就学前児童は「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が29.7%から32.0%に微増していますが、小学生はほぼ変化はありません。「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」については、就学前児童は61.6%から62.7%と1.1ポイント微増し、小学生は57.3%から53.2%と4.1ポイント減少しています。一方、「いずれもない」については、小学生では10.4%から16.2%に5.8ポイント増加しています。

#### ◆ 子どもをみてもらえる親族等の状況（就学前児童）



#### ◆ 子どもをみてもらえる親族等の状況（小学生）

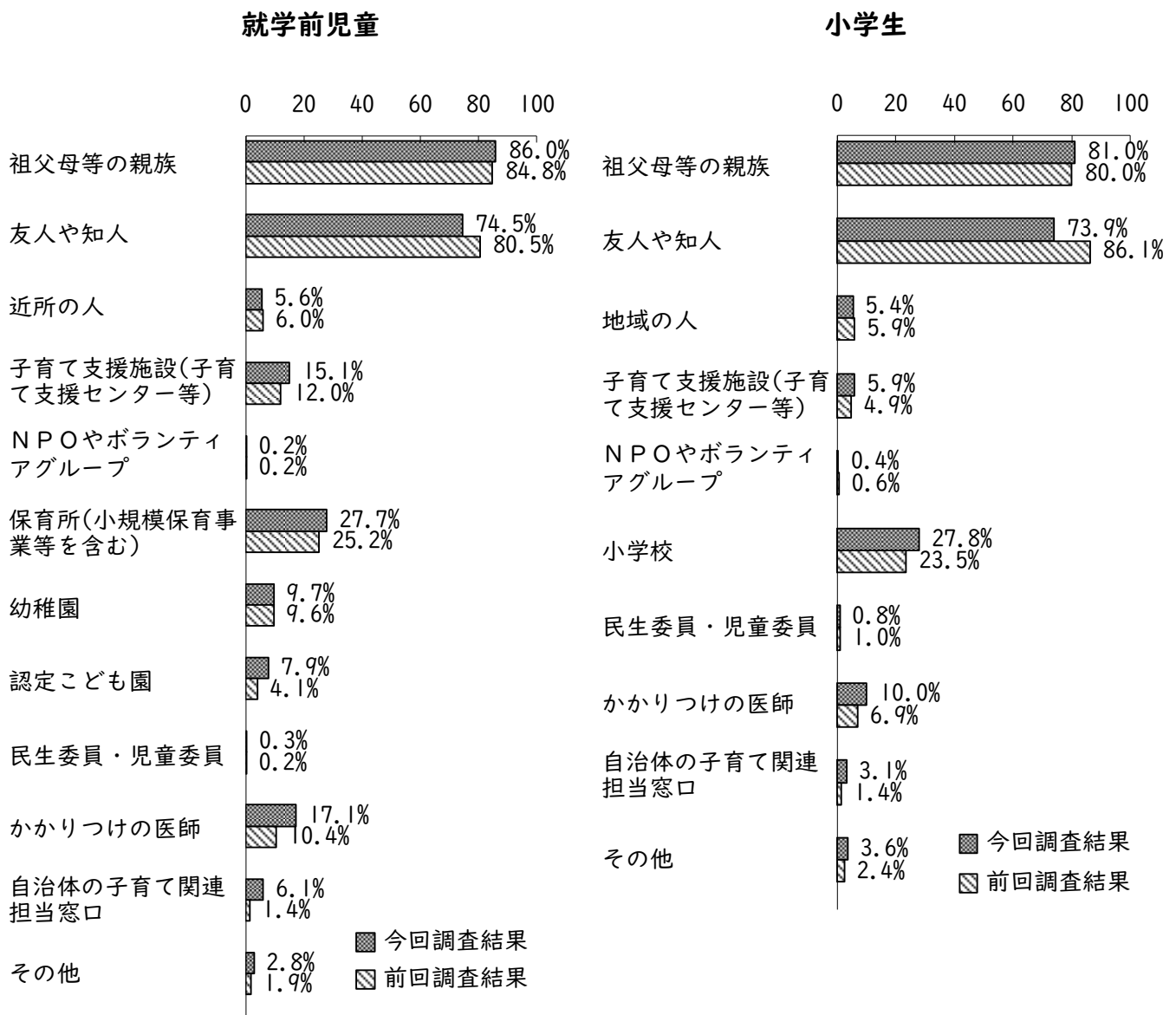


## 【子育て家庭の相談先】

子育て家庭の日常の悩み事などの相談相手となっているのは、前回調査に引き続き、「祖父母等の親族」「友人や知人」といった身近な存在となっており、いずれも70%以上と高くなっていますが、就学前児童、小学生ともに「祖父母等の親族」は微増し、「友人や知人」は減少しています。

一方、施設等への相談については、「保育所」「幼稚園」「認定こども園」や「小学校」といった平日の日中を過ごす施設が高く、就学前児童、小学生ともに、前回調査時よりも増加しています。

### ◆ 子育てに関する相談の状況



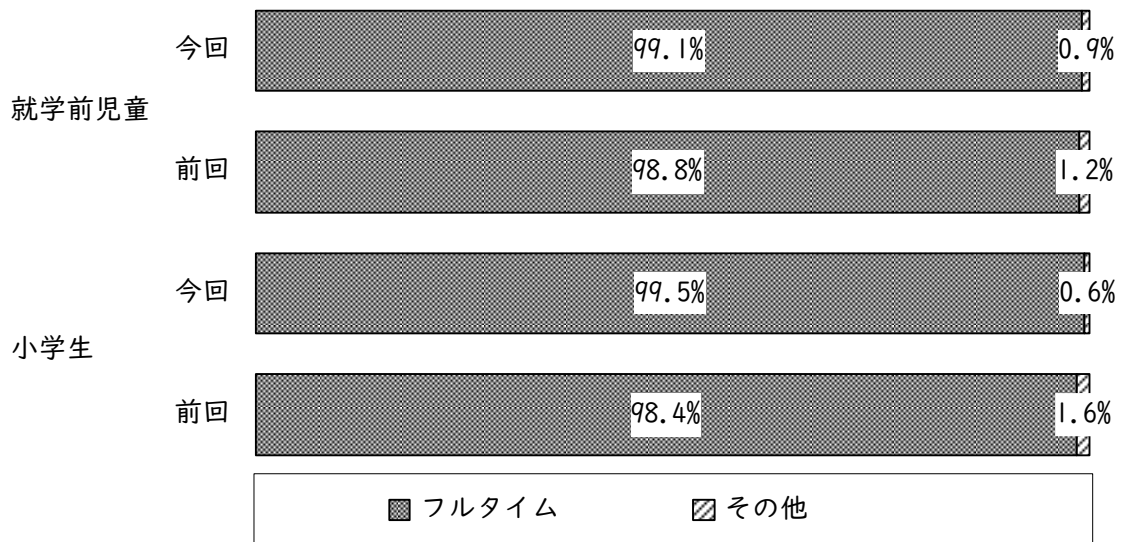
### ③保護者の就労の状況

#### 【保護者の就労の状況】

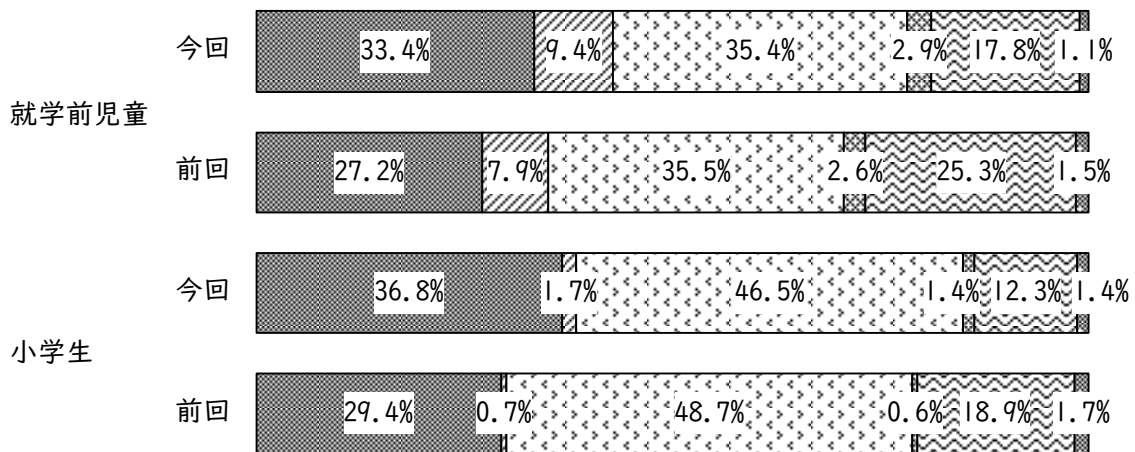
父親の就労状況をみると、前回調査、今回調査ともに98%以上の大多数がフルタイム勤務をしています。

一方、母親の就労状況をみると、前回調査時に比べ、育児休業中も含めてフルタイム勤務の方が就学前児童、小学生ともに増加し、未就労の方が減少しており、就労しながら子育てを行う家庭が増加しています。

#### ◆ 父親の就労の状況



#### ◆ 母親の就労の状況



- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▨ パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ☒ 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない

### 【育児休業の取得状況】

母親の育児休業等の取得状況をみると、「育児休業を取得中」もしくは「育児休業を取得し、復帰した」とした人が合わせて39.2%から48.7%と9.5ポイント増加しており、母親の育児休業取得は浸透している状況がみられます。

一方、父親についても2.4%から13.0%と10.6ポイントの増加となっており、父親の育児休業取得も徐々に浸透しつつあります。

#### ◆ 育児休業の取得状況（就学前児童）

単位：%

	母親			父親		
	今回調査	前回調査	増減	今回調査	前回調査	増減
出産以前から働いていなかった	21.9	29.6	△ 7.7	0.8	0.4	0.4
出産を機に仕事を辞めた	21.1	26.0	△ 4.9	0.1	0.0	0.1
育児休業中に退職した	3.8	2.0	1.8	0.1	0.0	0.1
育児休業を取得中である	8.8	6.0	2.8	1.2	0.1	1.1
育児休業を取得し、復帰した	39.9	33.2	6.7	11.8	2.3	9.5
育児休業を取得せず、働き続けている	4.5	3.2	1.3	86.1	97.2	△ 11.1

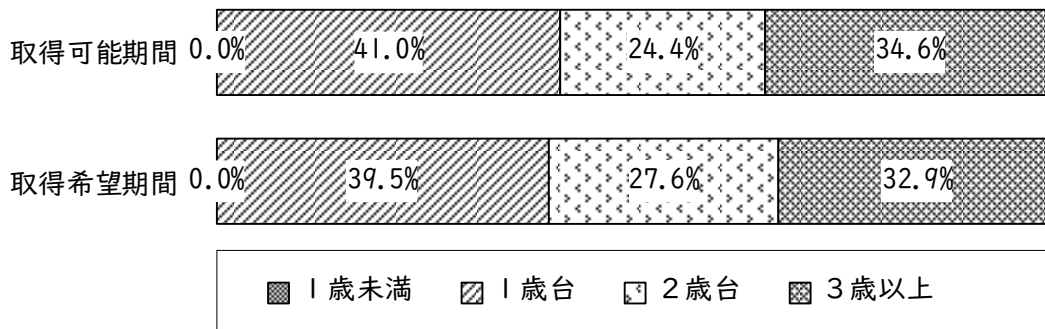
### 【育児休業制度の取得希望と取得可能期間の状況】

現在、育児休業を取得している母親の育児休業を取得可能な子どもの年齢は、1歳以上が100%、3歳以上が34.6%となっており、制度の面からは充実が進んでいる状況がみられます。

一方、取得を希望する子どもの年齢をみると、「1歳台」の希望が39.5%と最も高くなっており、制度を完全に活用することを希望していない状況がみられます。

その理由として挙げられているのは、経済的な理由での早期復職を希望することや、人事異動や業務の節目などを意識した復職が挙げられています。

#### ◆ 育児休業の取得希望期間と取得可能期間（就学前児童）

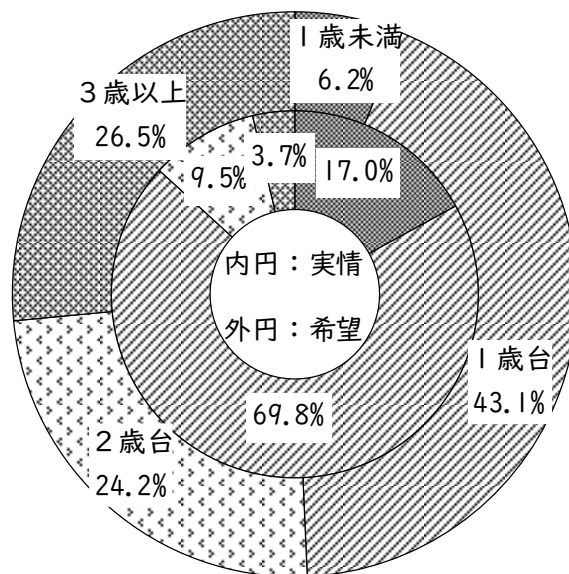


## 【育児休業からの復職時期の状況】

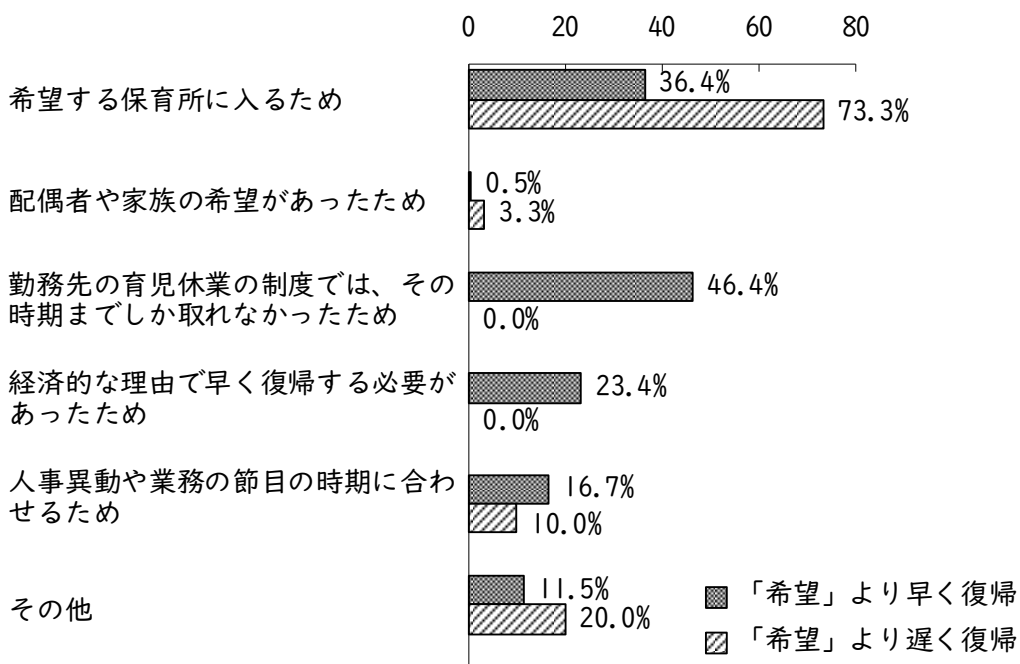
母親の育児休業からの復職時期については、「3歳以上」の希望が26.5%であるのに対し、実際に「3歳以上」まで取得できたのは3.7%にとどまるなど、様々な事情からすべての方が希望通りに育児休業を取得できていない状況が表れています。

その要因をみると、希望より早く復帰した方については、「勤務先の育児休業の制度では、その時期までしか取れなかったため」が46.4%で最も高く、「希望する保育所に入るため」が36.4%、「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」が23.4%で続いています。希望より遅く復帰した方については、「希望する保育所に入れなかったため」が73.3%で最も高く、「その他」が20.0%、「子どもをみてくれる人がいなかったため」が10.0%で続いています。

### ◆育児休業から復職した時期の希望と実情



### ◆復職時期が希望と異なる理由



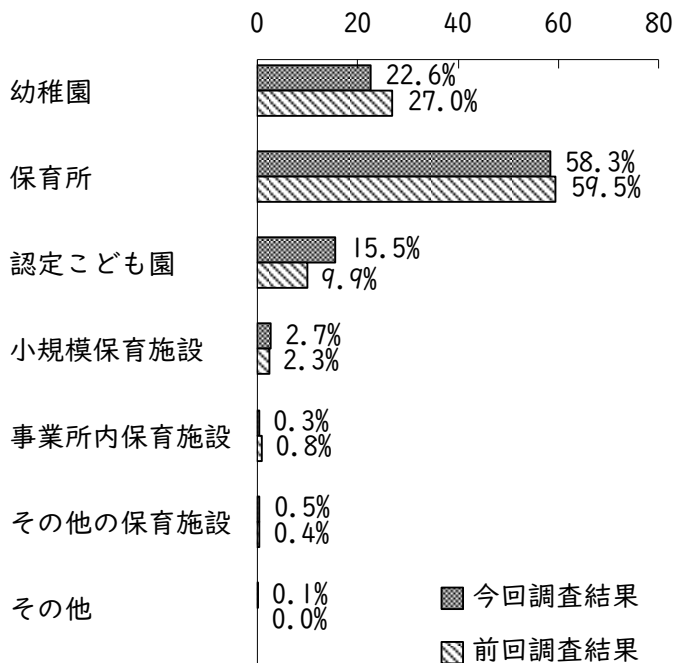
#### ④教育・保育事業の利用

##### 【平日の定期的な教育・保育事業の利用状況】

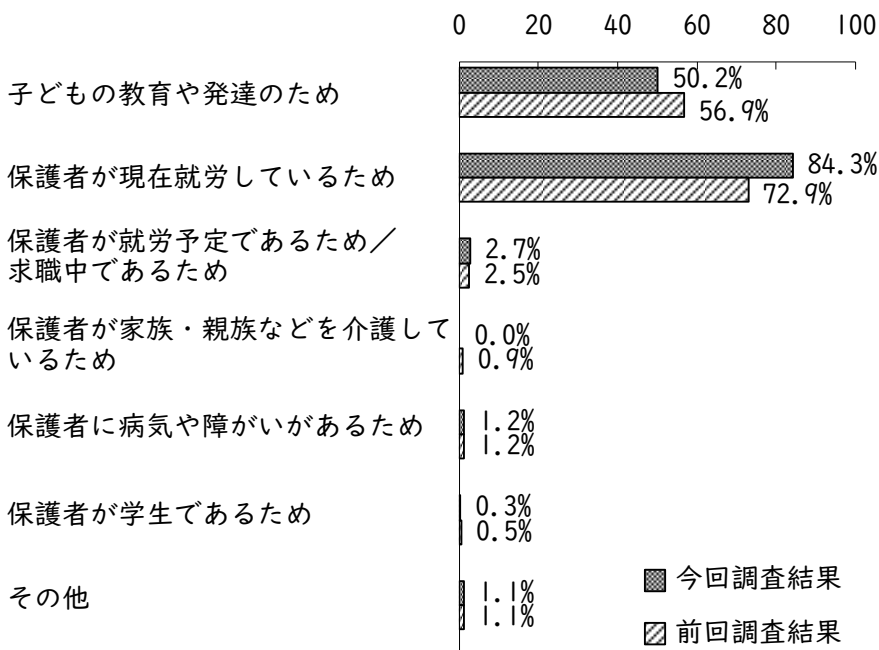
平日の定期的な教育・保育事業として利用している施設は、前回に続き、「保育所」が最も高く、次いで「幼稚園」となっています。いずれもやや減少していますが、認定こども園や小規模保育事業が市内に整備されたことが影響しています。

事業を利用している理由は、「保護者が現在就労しているから」「子どもの教育や発達のため」が50%以上となっていますが、「保護者が現在就労しているから」が11.4ポイント増加し、「子どもの教育や発達のため」は6.7ポイント減少しています。

##### ◆ 現在、利用している施設の状況



##### ◆ 現在、事業を利用している理由





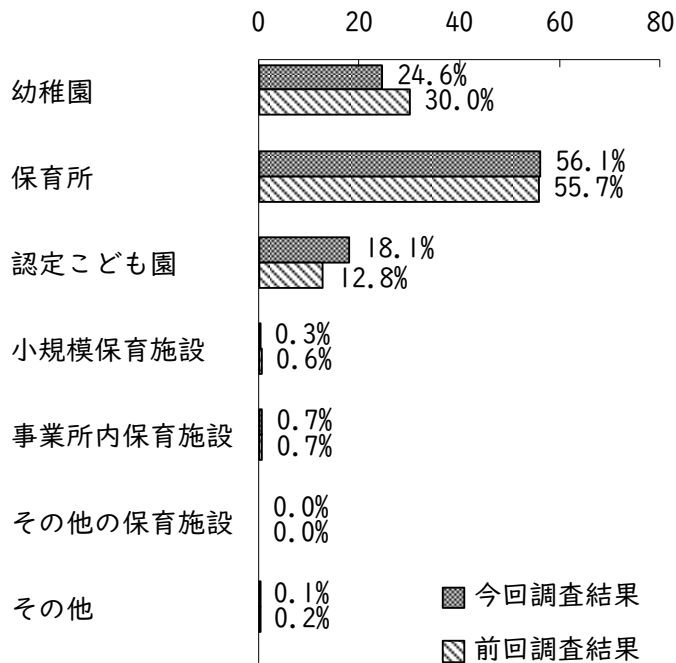
### 【平日の定期的な教育・保育事業の今後の利用意向】

今後の平日の定期的な教育・保育事業の利用意向については、「保育所」が56.1%と最も高く、前回とほぼ変化はありません。「幼稚園」は24.6%と5.4ポイント減少している一方、「認定こども園」は18.1%と5.3ポイント増加しています。

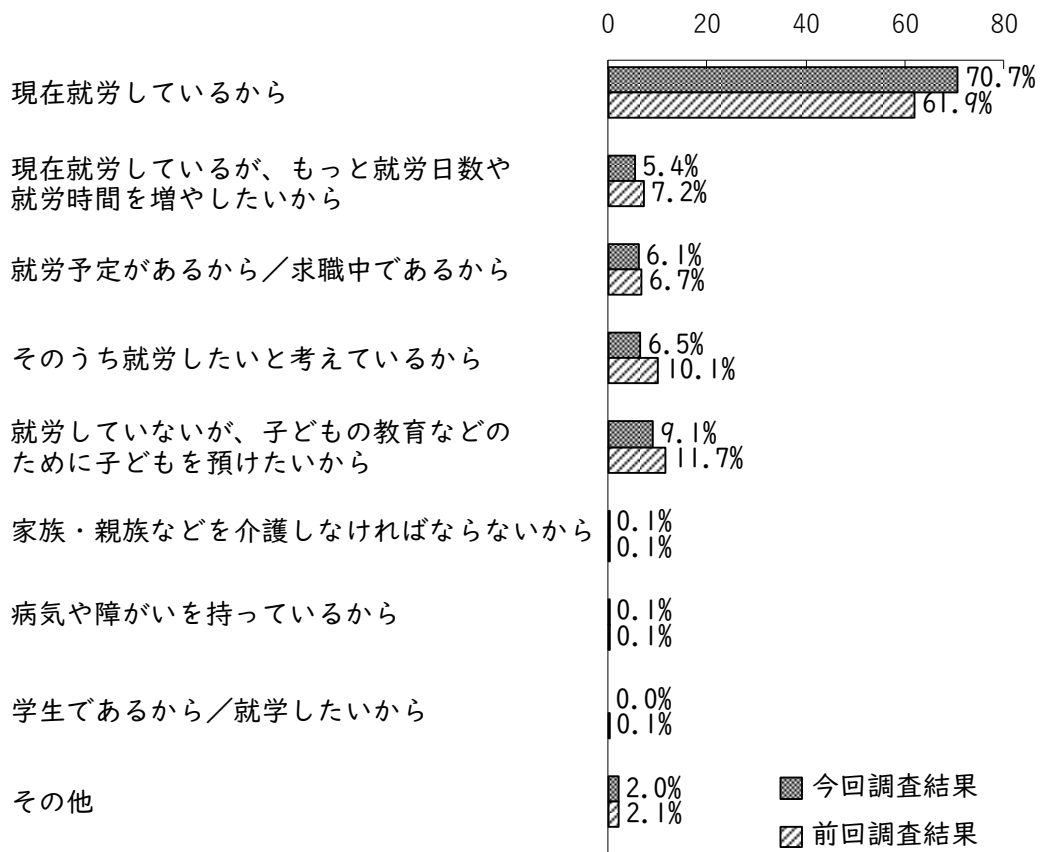
事業を利用したい理由は、「現在就労しているから」が最も高い70.7%で、前回から8.8ポイント増加しています。

いずれも、現状の利用状況と似た傾向となっておりますが、就労による影響がより顕著に表れています。

#### ◆ 今後、利用したいと考えている施設



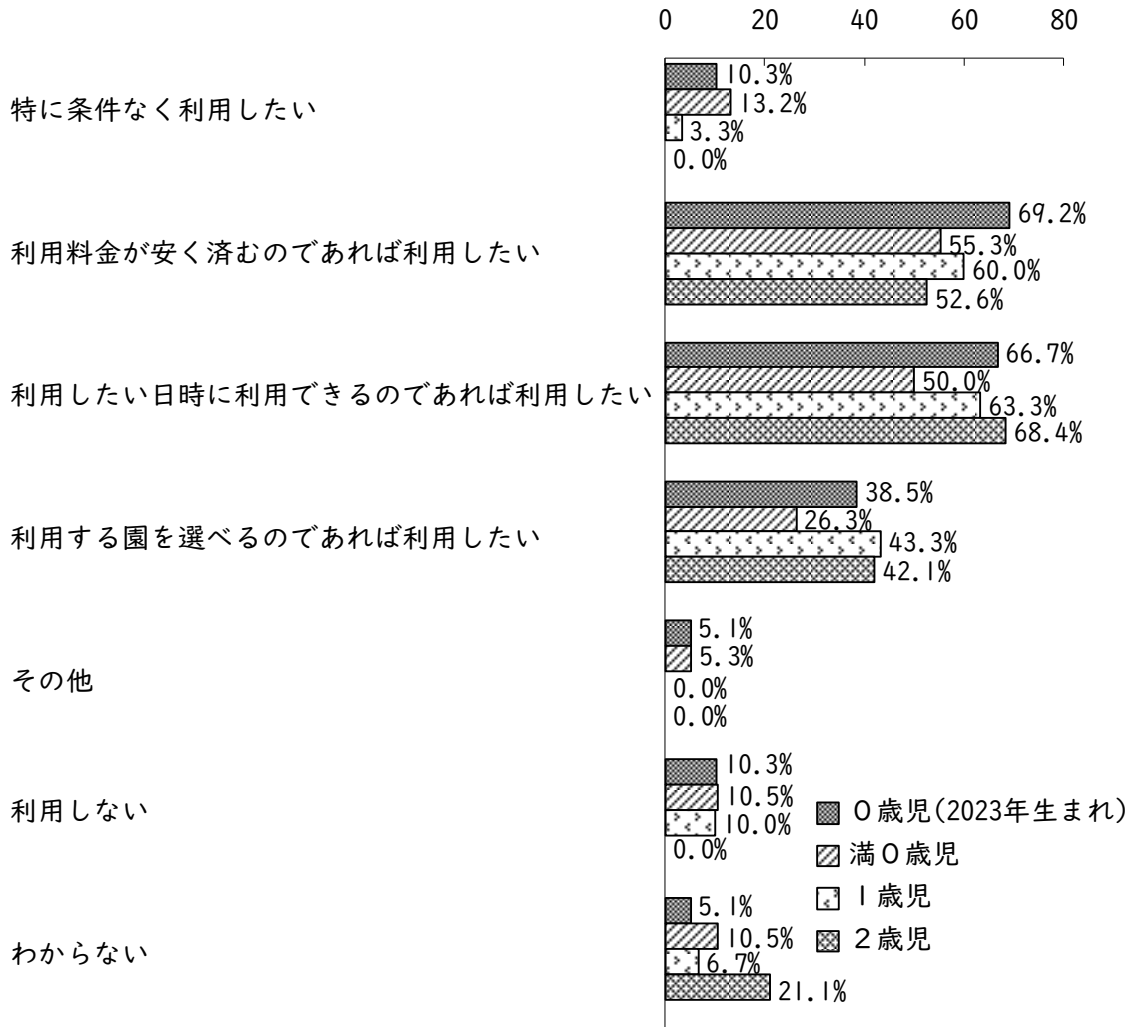
◆ 今後、事業を利用したい理由



【『子ども誰でも通園制度(仮称)』を利用したい条件】

現在、平日の定期的な教育・保育事業を利用していない方の『子ども誰でも通園制度(仮称)』を利用したい条件について年齢別にみると、「0歳児(2023年生まれ)」と「満0歳児」では「利用料金が安く済むのであれば利用したい」が最も高く、「1歳児」と「2歳児」では「利用したい日時に利用できるのであれば利用したい」が最も高くなっています。

◆ 『子ども誰でも通園制度(仮称)』を利用したい条件



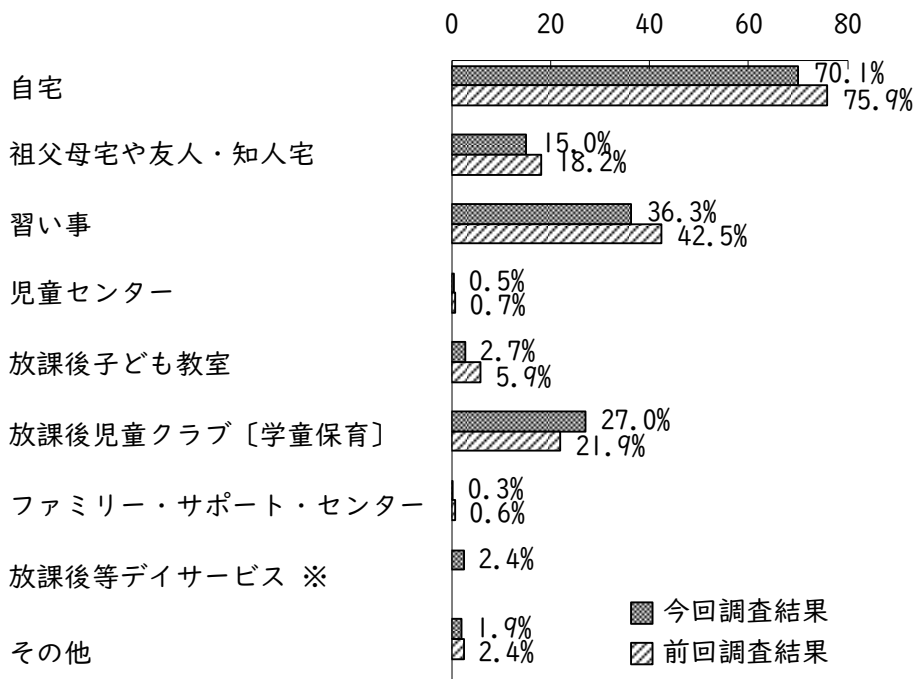
### ⑤小学生の放課後の過ごし方

#### 【現在、放課後を過ごしている場所】

現在の放課後の過ごし方は、前回に続き「自宅」が70.1%で最も高く、次いで「習い事」が36.3%となりますが、前回から「自宅」が5.8ポイント、「習い事」が6.2ポイント減少しています。また、「祖父母宅や友人・知人宅」が15.0%で3.2ポイント減となる一方、「放課後児童クラブ」が27.0%で5.1ポイント増加しています。

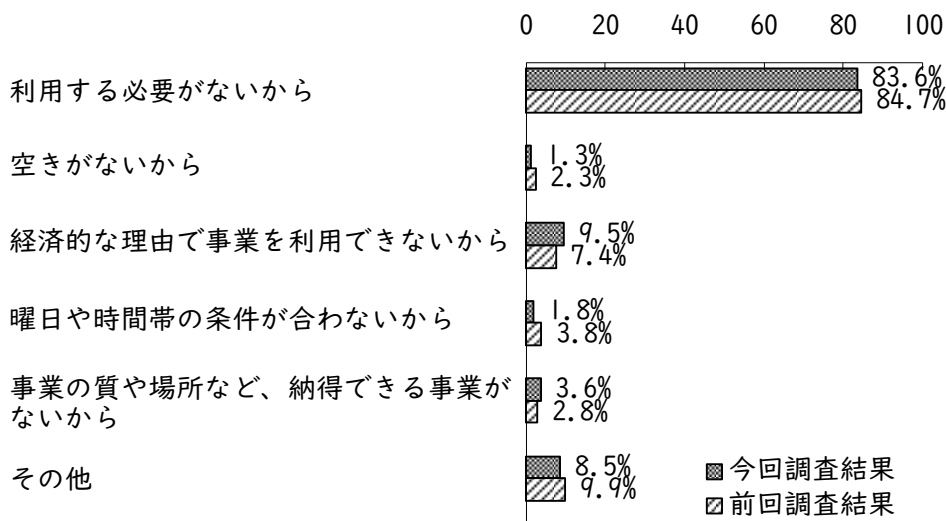
放課後児童クラブを利用しない理由をみると、「利用する必要がないから」が83.6%と最も高くなっており、全体的に前回調査とほぼ同じ傾向となっています。

#### ◆ 現在の放課後の過ごし方



※前回調査時には市内に施設がなく設問になかった施設

#### ◆ 放課後児童クラブを利用しない理由

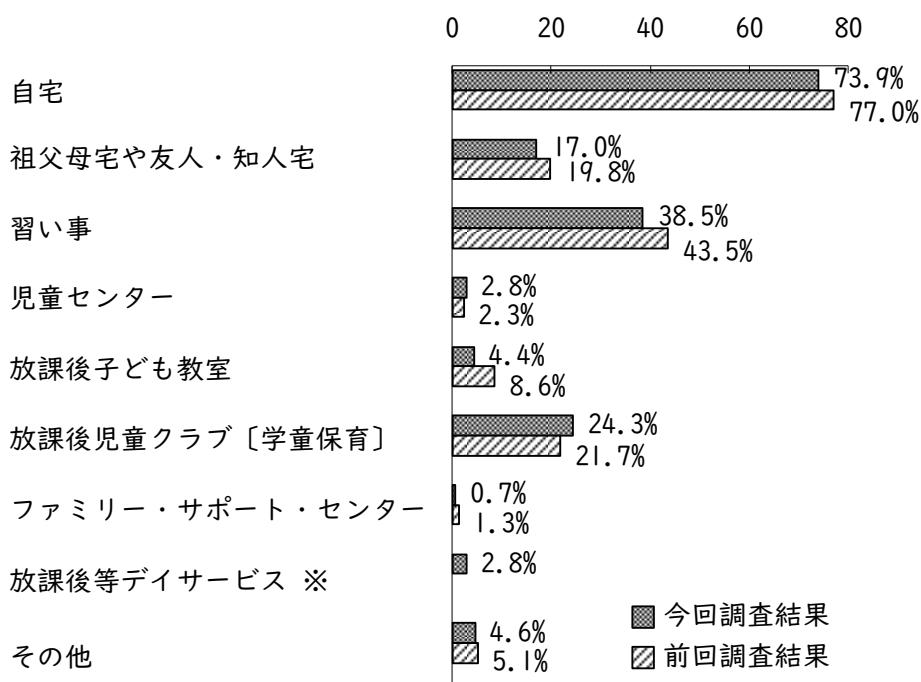


### 【今後、放課後を過ごさせたい場所】

今後、放課後を過ごさせたい場所は、「自宅」が73.9%で最も高くなっています。次いで「習い事」が38.5%となりますが、前回から5.0ポイント減少、「祖父母宅や友人・知人宅」が17.0%で2.8ポイント減少となり、「放課後児童クラブ」は24.3%で2.6ポイント増加しています。

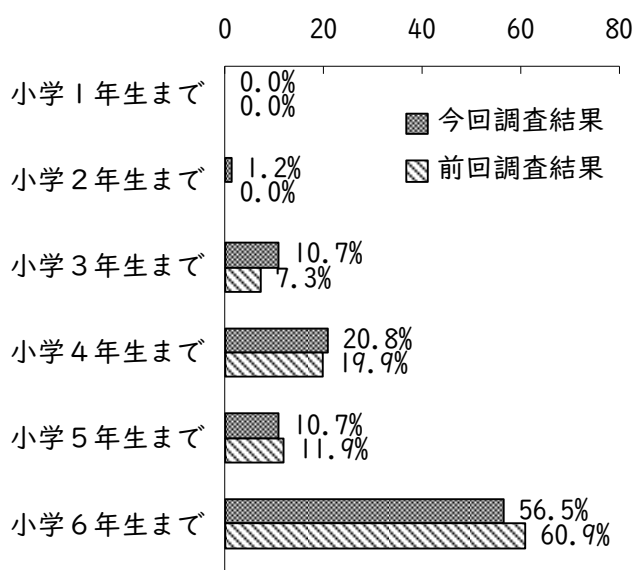
放課後児童クラブを利用したい期間は、前回同様「小学6年生まで」が最も高く、56.5%をとっていますが、前回から4.4ポイント減少しています。一方、「小学3年生まで」は10.7%と前回から3.4ポイント増加しており、低学年の間は放課後児童クラブを利用したいと考える人が増加しています。

### ◆ 今後、放課後を過ごさせたい場所



※前回調査時には市内に施設がなく設問になかった施設

### ◆ 放課後児童クラブを利用したい期間



## (2) 亀山市子どもの生活実態に関する調査結果報告書

第3期子ども・子育て支援事業計画の策定にあたっては、第2期計画策定時と同様に、子どもの生活実態について、市内在住の就学前児童及び小学生および中・高生の保護者並びに、支援制度の利用者を対象に、令和6年2月にアンケート調査を実施しました。

調査の実施については、在園児及び在校生の保護者に対しては、施設を通じた配布・回収を行い、未就園児の保護者及び支援制度利用者に対しては郵送による配布・回収を行いました。

なお、就学前児童及び小学生の保護者のアンケートについては、子ども・子育てに関するアンケートとあわせて実施しています。

### 【回収結果】

調査種別	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
就学前児童調査 (就学前児童)	1,252	1,016	1,014	81.0%
小学校児童調査 (小学生)	656	600	599	91.3%
中・高生調査 (中・高生)	432	395	395	91.4%
支援制度利用者調査 (支援制度利用者)	390	142	142	36.4%

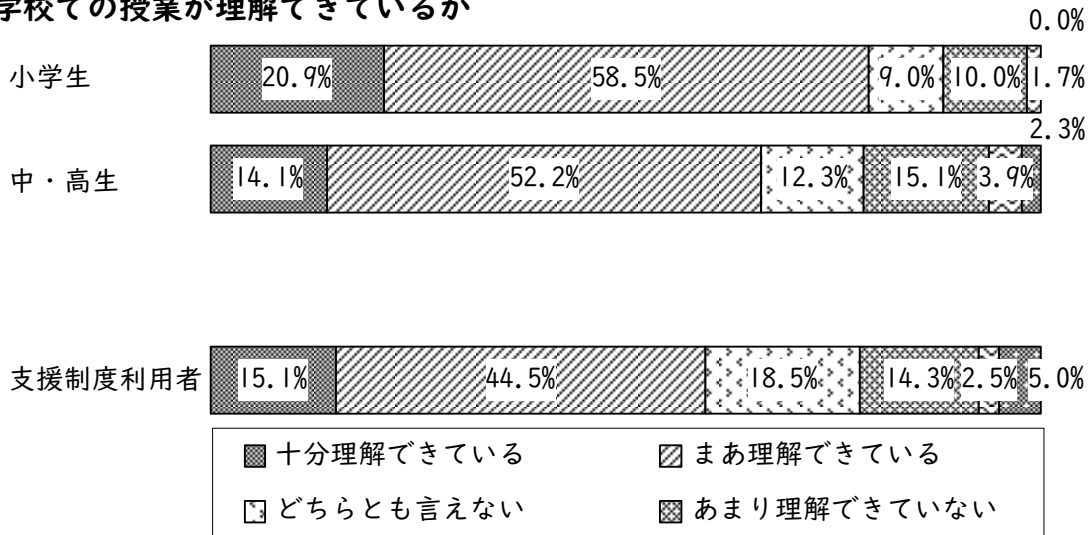
## ①教育支援に関すること

### 【学校での授業が理解できているか】

子どもの学校での授業への理解については、「小学生」では「十分」と「まあ」を合わせた、理解できていると答えた『肯定的な回答』が約8割となっています。「中・高生」では約7割、「支援制度利用者」では約6割となっています。

一方、「あまり」と「ほとんど」を合わせた、理解できていないと答えた『否定的な回答』は「小学生」では11.7%、「中・高生」では19.0%、「支援制度利用者」では16.8%となっています。

#### ◆ 学校での授業が理解できているか

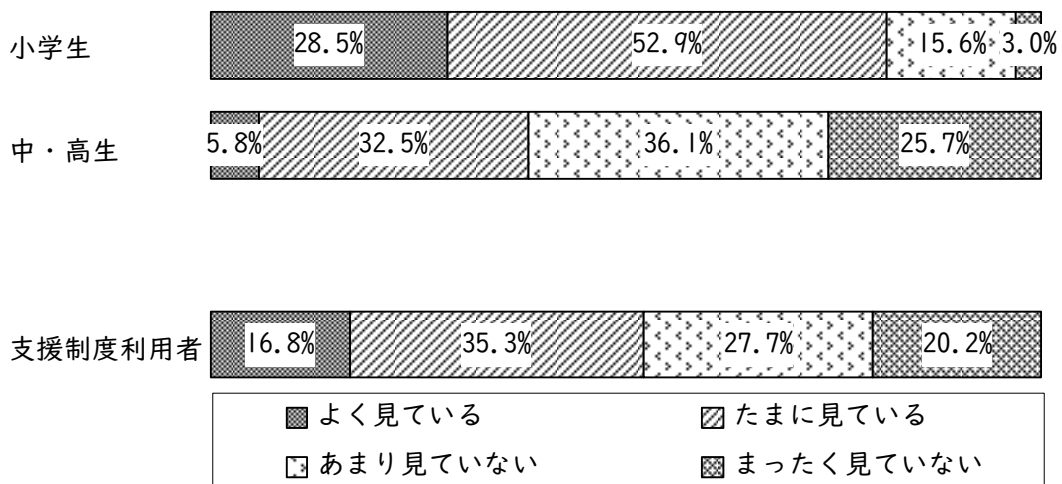


### 【家で子どもの勉強を見ることはあるか】

保護者が家で子どもの勉強を見ることがあるかどうかについては、「小学生」では「よく」と「たまに」を合わせた、見ていると答えた『肯定的な回答』が約8割となっています。「中・高生」では約4割、「支援制度利用者」では約5割となっています。

一方、「あまり」と「まったく」を合わせた、見ていないと答えた『否定的な回答』は「小学生」では18.6%、「中・高生」では61.8%、「支援制度利用者」では47.9%となっています。

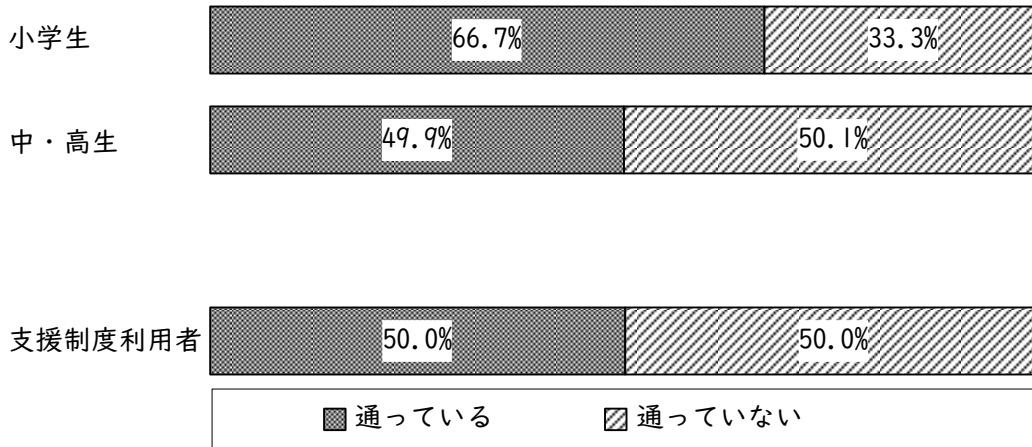
#### ◆ 家で子どもの勉強を見ることはあるか



### 【塾や習い事に通っているか】

塾や習い事に通っているかどうかについては、「小学生」では「通っている」が約7割、「中・高生」「支援制度利用者」では5割となっています。

#### ◆ 塾や習い事に通っているか



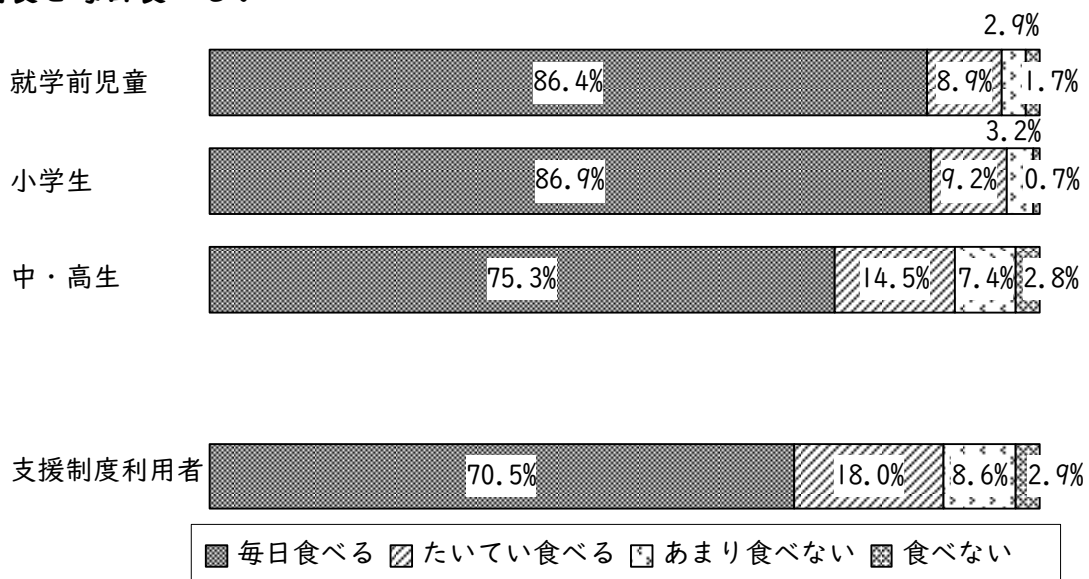
### ②生活支援等に関すること

#### 【朝食を毎日食べるか】

朝食を毎日食べるかどうかについては、「毎日」「たいてい」は食べるという人が合わせて「就学前」では95.3%、「小学生」では96.1%に上り、大半の子どもが朝食を食べています。

一方、「中・高生」「支援制度利用者」では「あまり食べない」「食べない」という人が約1割あります。

#### ◆ 朝食を毎日食べるか

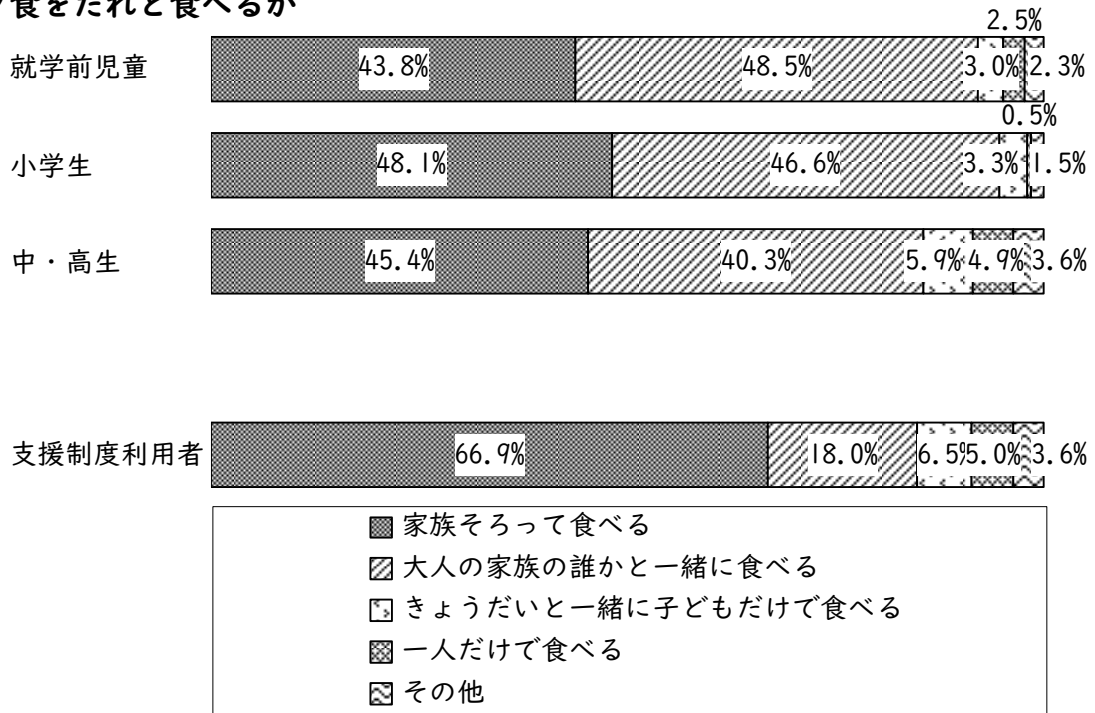




## 【夕食をだれと食べるか】

夕食をだれと食べるかについては、「就学前児童」では「大人の家族の誰かと一緒に食べる」が48.5%と最も高く、次いで「家族そろって食べる」が43.8%となっています。「小学生」「中・高生」「支援制度利用者」では「家族そろって食べる」が最も高く、「大人の家族の誰かと一緒に食べる」が続いています。

### ◆ 夕食をだれと食べるか

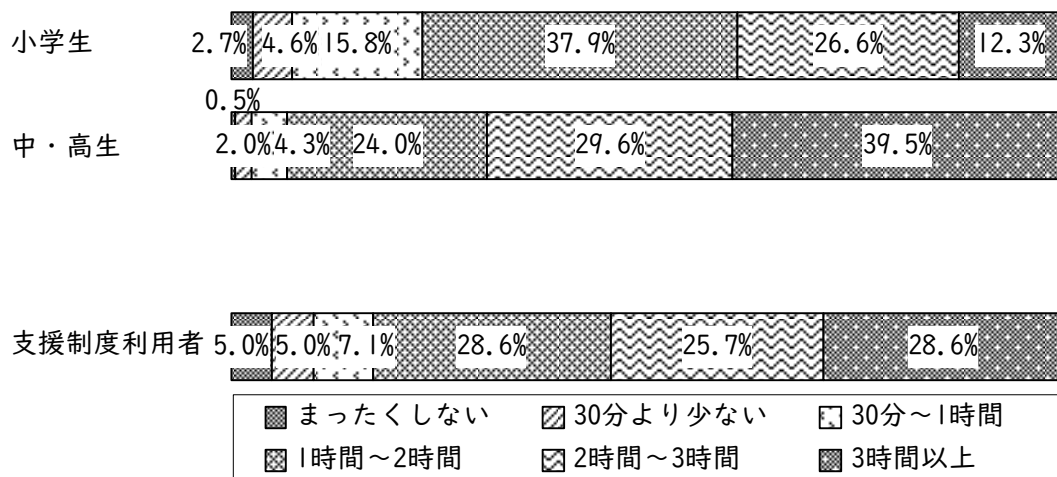


## 【ゲームやスマホを利用する時間】

子どものゲーム・スマホの利用時間については、「小学生」では「1時間～2時間」が、「中・高生」では「3時間以上」が最も高く、「支援制度利用者」では「1時間～2時間」と「3時間以上」が同率となっています。

2時間以上ゲームやスマホを利用している割合は、「中・高生」が約7割と最も高く、次いで「支援制度利用者」が5割強、「小学生」が約4割となっています。

### ◆ ゲーム・スマホを利用する時間

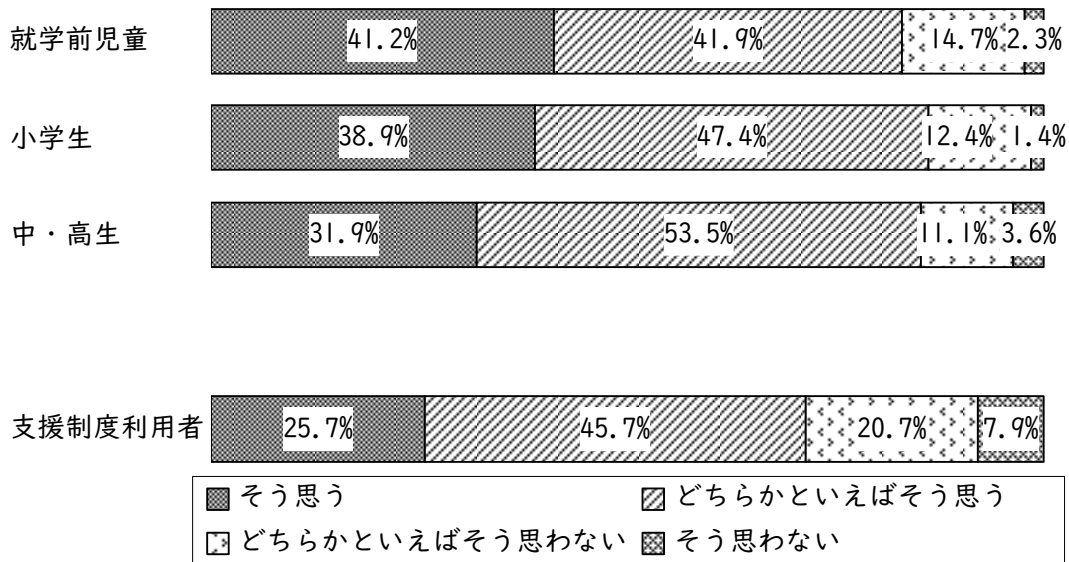


### 【子どもと十分時間を過ごしていると感じるか】

子どもと十分時間を過ごしていると感じるかどうかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定的な回答』は、「就学前児童」「小学生」「中・高生」では8割を超えています。

一方、「支援制度利用者」では『肯定的な回答』は約7割となっており、「そう思わない」が7.9%と、他の区分に比べて高くなっています。

#### ◆ 子どもと十分時間を過ごしていると感じるか

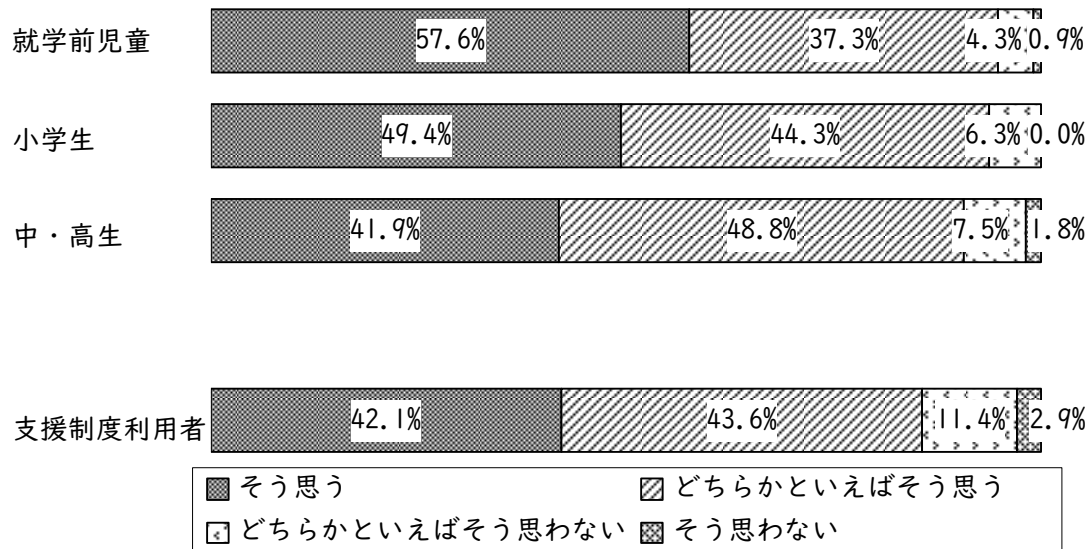


### 【子どもと良く会話をするか】

子どもと良く会話をするかどうかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定的な回答』は、「就学前児童」「小学生」「中・高生」では9割を超えています。

一方、「支援制度利用者」でも『肯定的な回答』は8割強となっていますが、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『否定的な回答』が14.3%と、他の区分に比べて高くなっています。

#### ◆ 子どもと良く会話をするか



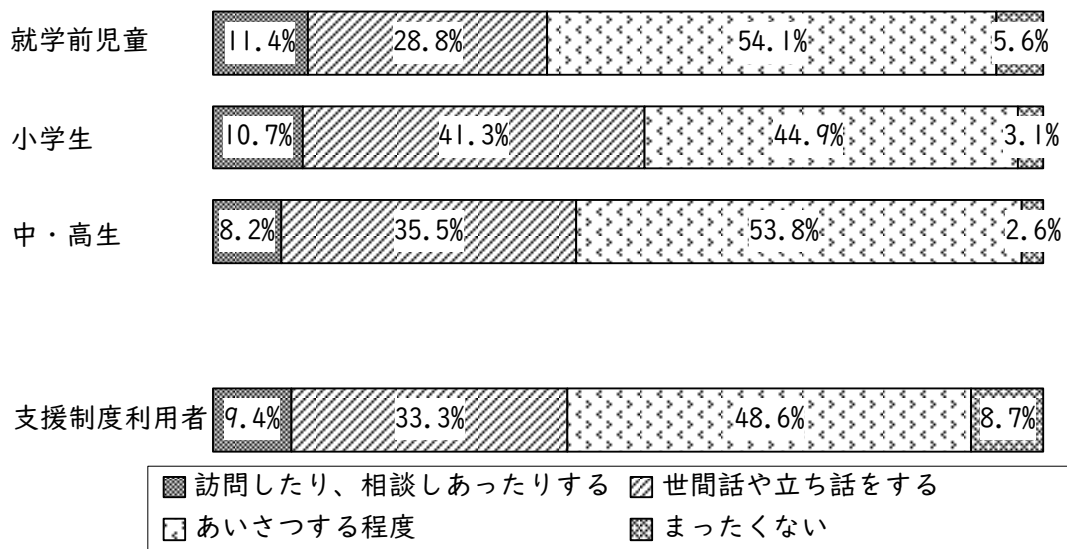
### ③地域社会とのかかわりに関すること

#### 【近所の方とどの程度の付き合いがあるか】

近所の方との付き合いの程度については、いずれの区分でも「あいさつする程度」が最も高く、「世間話や立ち話をする」が続いています。

一方、「まったくない」は「支援制度利用者」では8.7%と、他の区分に比べて高くなっています。

#### ◆ 近所の方とどの程度の付き合いがあるか

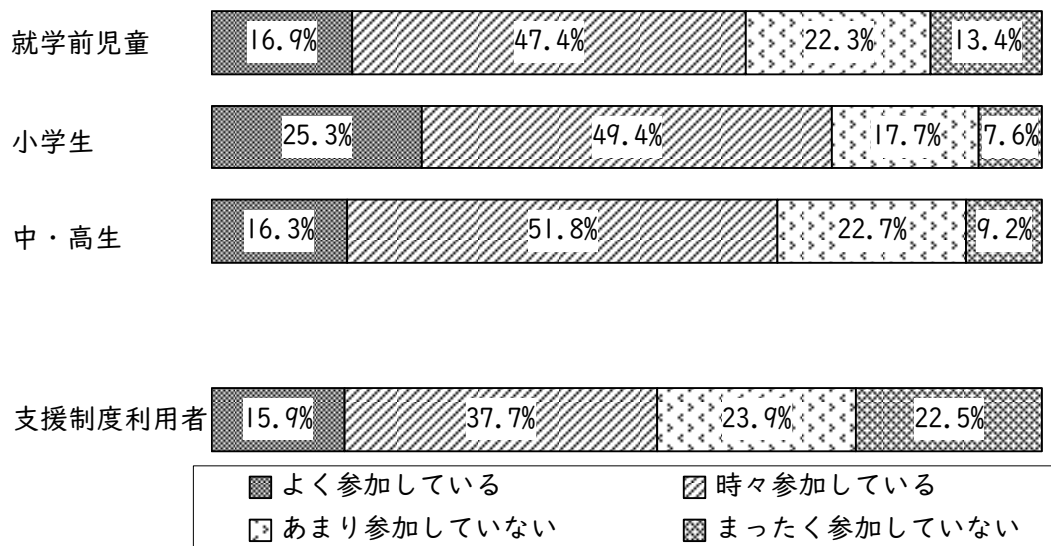


#### 【地域の行事に参加しているか】

地域の行事への参加については、「小学生」では「よく」と「時々」を合わせた、参加していると答えた『肯定的な回答』が7割強となっています。「中・高生」では約7割、「就学前児童」では6割強、「支援制度利用者」では5割強となっています。

一方、「あまり」と「まったく」を合わせた、参加していないと答えた『否定的な回答』は「支援制度利用者」では46.4%と、他の区分に比べて高くなっています。

#### ◆ 地域の行事に参加しているか



#### ④行政の支援制度及び必要となる施策に関すること

##### 【子育てする上で、気軽に相談できる人または場所はあるか】

子育てに関する相談先については、「就学前児童」では「いる／ある」が9割強、「小学生」では約9割、「支援制度利用者」では8割強となっています。

一方、「ない」は「支援制度利用者」では15.4%と、他の区分に比べて高くなっています。

##### ◆ 子育てする上で、気軽に相談できる人または場所はあるか

